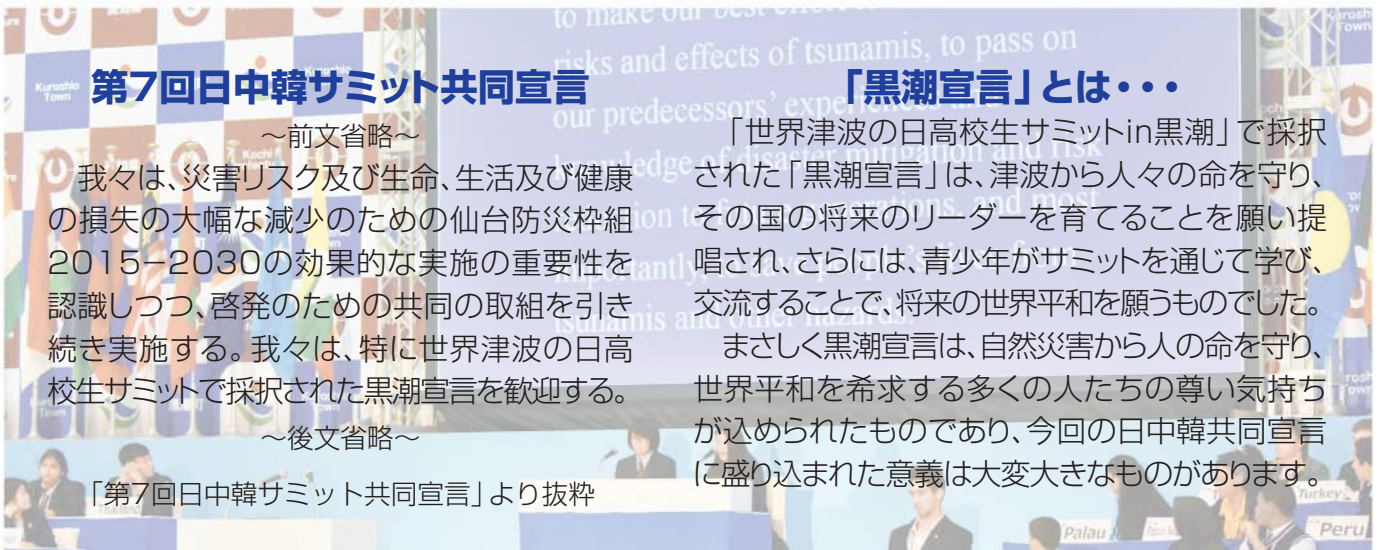


日中韓共同宣言に「高校生サミット黒潮宣言」が盛り込まれました

5月9日(水)、3カ国首脳による「第7回日中韓サミット」で発表された「共同宣言」に、平成28年11月に行われた「世界津波の日高校生サミットin黒潮」の黒潮宣言に関する一文が盛り込まれました。

これについて、同サミットにおいて議長を務めた大方高等学校の生徒2名と校長先生よりコメントをいただきました。



第7回日中韓サミット共同宣言

～前文省略～

我々は、災害リスク及び生命、生活及び健康の損失の大幅な減少のための仙台防災枠組2015-2030の効果的な実施の重要性を認識しつつ、啓発のための共同の取組を引き続き実施する。我々は、特に世界津波の日高校生サミットで採択された黒潮宣言を歓迎する。

～後文省略～

「第7回日中韓サミット共同宣言」より抜粋

「黒潮宣言」とは・・・

「世界津波の日高校生サミットin黒潮」で採択された「黒潮宣言」は、津波から人々の命を守り、その国の将来のリーダーを育てることを願い提唱され、さらには、青少年がサミットを通じて学び、交流することで、将来の世界平和を願うものでした。

まさしく黒潮宣言は、自然災害から人の命を守り、世界平和を希求する多くの人たちの尊い気持ちが込められたものであり、今回の日中韓共同宣言に盛り込まれた意義は大変大きなものがあります。

本校の2名の生徒が議長として採択に関わった「黒潮宣言」の価値が、他の国々にも認められたことは大きな喜びです。

各首脳が、日中韓サミットの宣言文の中に「黒潮宣言」を盛り込んだことは、若き防災リーダーたちの今後の取組に対する期待を込めたものであると思います。併せて、防災・減災政策のさらなる推進に向け、その価値や意義を各国の施策の中に位置付けたいとの思いもあったのでしょうか。

本校としても、改めて「黒潮宣言」の意義や価値を見つめ直し、町や専門家などとの連携をもとに、防災・減災に向けた取組をさらに充実させてまいります。

高知県立大方高等学校長 大西 雅人

日中韓サミットで触れられるほどの「黒潮宣言」採択に関わることができたことは、すごい経験だったと改めて思いました。

「世界津波の日」高校生サミットは、大方高校が積極的に防災に取り組むきっかけとなりました。また、高知県版の高校生サミットが行われるなど、高知県全体でも防災意識が高まったと思います。高校生サミットがこれから他の都道府県でも行われ、高校生も国の力になれるということを多くの人に知ってもらえるといいなと思います。

これから、学校内だけではなく、地域や県に発信していける防災活動を考えていきたいと思っています。

今村 琳花

「黒潮宣言」を元に高校生サミットが続いて、世界的に防災について共有し合える場になるといいなと思います。

私は今オーストラリアで生活していますが、ここでは地震や津波はあまり起こりません。そして、他の自然災害についても防災意識が低いと感じます。実際に災害が起きたとき、どうすればよいのか。そんなことを考える避難訓練や防災教育がないので、一人ひとりが考えて行動することができず、被害が大きくなってしまわないかと思っています。

日本から世界に、もっと防災に力を入れるべきだと伝えてほしいです。

今井 恋